

# 銀河通信

NPO法人 北斗七星

〒376-0006 桐生市新宿 3-3-19

(桐生市総合福祉センター内)

Tel 43-6151 Fax 46-9504



今年  
おめでんやっ  
ゴザいます  
明けまして

『北斗七星の家』のみんなが、今年の干支の“いのしし”を書初め？ 描き初め！してくれました。いろいろな表情をしたいのししがいて、心とむ事と思います。

今年一年、みんなが描いてくれたいのししさん達のように、ほんのり、のんびり、そして静かな、前進力を忘れず、日々励んでいきたいと思っております。

宜しくお願い致します。

# 今年は新しい時代がやってくる！！

障害があっても、障害がなくても、お金があっても、お金がなくても、シニアでも、ヤングでも、みんなが普通に暮らせるような元号を予想してもらいました。

安世

世界中の皆が心から共に生きていける世に  
なりたいように...

安心

明るい未来、平和への  
おそいをこめて！

安明

安らかな  
明るい世の中になるよう  
...という、子供の将来が安らかに  
明るい未来を夢見てほしいです

安明

安らぎ、おどろき、  
明るい時代

明和

明るい世の中と  
世界平和を  
願います

明太

明るく、骨太に!!  
是れ、おいしい(?)  
あたたかい時代に  
なりたいように...

煌明

輝く明るい  
きらめく、かかやく  
あしたになるように!

開明

あかるくひらけ  
るように

安寧

社会が穏やかで  
平和な世に

安和

安心出来る  
平和な世の中

愛和

バラバラに離反している  
物事を状態を統合し、融  
合し、すべてが幸福にな  
る様に

安福

安心、安全、安泰  
のあめやかな日本  
にしたいように



## 新元号は?

北斗七星の皆さんが思い、願いを  
込めて考えてくれました。

4月1日...さてさてこの中にあるでしょうか。

慶和

喜びのある穏やかな  
時代になりたくて

舞

はずんだ気持ちで  
過ごせる日々が  
続きたくて

大成

飛躍の年、  
決めた年から  
大政奉還から明治

皆輝

皆が輝けるように

新生

新しく生まれかわる

光来

光輝く未来に!!

優気

いつも優しい気持ちで  
過ごせるように!

栄光

一人一人が光り輝く  
希望あふれる毎日に  
なりたいように!

宇宙

宇宙一の  
身置場を見つけた

爆笑

笑いが一番

共和

みんなと一緒に  
おたやかな日本  
にしたいように!

天安

自然災害が少く  
安心して生活出来る  
ように

光明

希望

光明

光あふれる  
明るい時代に  
なりたいように!!

# 障害児の放課後デイに取り組み4事業者

## 初の勉強会で要点探る

桐生・みどりの地域で障害児の放課後等サービスに取り組む4事業者のスタッフが顔を合わせ、初めての勉強会を開いた。2012年の法改正に伴い、放課後デイでは、児童のすこやかな育成を保障する児童福祉法に基づいたサービスの提供が求められている。学童期の障害児やその保護者にとって有意義な「支援」とは何か。参加した約20人は現場の課題や疑問を洗い出し、子どものやる気を引き出す工夫や、親子関係への配慮、スタッフ間の意識共有など、サービスの質向上につながる要点を探った。

### 3グループに分かれ意見交換

勉強会に参加したのは「きらきら星」(桐生市新宿三丁目)と「いちはん星」(同東五丁目)、「アニマート桐生みどりの」(同田町一丁目)「999スリーナイン」(桐生みどりの)同相生町二丁目と「999登懸」(みどりの市笠懸町鹿)「いちはんはつすま」(みどりの市小俣町)で働くスタッフや管理者。

10月26日、桐生市総合福祉センター4階に集まった参加者は、「管理者・児童発達支援」「活動内容」「問題行動・気になる行動の支援方法」の3グループに分かれ、課題と対策について意見交換した。

管理者・児童発達のグループでは、事業所の方向性を定める児童発達の仕事をめぐり、さまざまな意見が出た。

「この子を育てるためにどういう支援がしたいと、保護者にしっかりと意思表示する」「保護者だけでなく、スタッフどうしの意識共有も大切」「一人で抱えすぎず、周囲の声を傾ける」

子どもの居場所や保護者支援といった役割にとまらせず「子どもを育てる」「親子関係を育む」という本来の「支援」の意義を忘れないことが大切だと、世津子さんの呼び掛けで実現した。

また、問題行動・気になる行動



【メモ】障害者自立支援法に基づく児童発達サービスは2012年の法改正で、児童福祉法に基づく障害児通所支援事業として児童発達支援センター(対象は未就学児)と放課後等デイサービス(対象は小学生・高校生)の二つに分かれた。児童発達支援管理責任者は、法改正に伴い新たに生まれた職種。放課後等デイサービスの事業所は2018年6月現在、桐生みどりの地域内に13カ所ある。

## 苦言や課題を洗い出しより質の高いサービスを

動の支援方法のグループでも、課題や支援法が挙げられた。

「作業がやめられず帰りがけにくくなってしまつた子には終了間近ではなく、きりのよいところで声をかけている」「長期の休み明けで学校生活が始まると不安定になる子供が多い」「思春期を迎える子のトイレ介助などに悩む」「男性の場合、公共施設でのトイレに対応できるように外出時に練習している」

会議の進め方一つとっても、

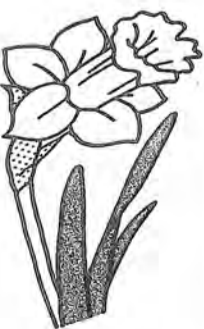
他事業所の取り組みは新鮮に映る。

参加した放課後等デイサービス999の統括マネージャーで管理者の赤石一人さんは「よその方法や取り組みを知り、いいところがあれば取り入れ、サービスの質を高めた。こうした勉強会はありがたい」と話す。

田畑さんは「苦言や課題を言い合う場は大切。できればこうした試みを続けたい」と話した。

昨年年度まで3年間の県障害福祉計画で掲げた障害者の地域移行が、目標を大幅に下回った。前回計画の実績をもとに、310人を福祉施設から地域社会に移すことを目指したが、グループホームに移ったり、自宅に戻ったりして地域社会で暮らせるようになったのは104人と、34%にとどまった。

13日に開かれた県障害者施策推進審議会の会合で県が公表した。



## 障害者の地域移行34% 県目標下回る

同計画は障害者総合支援法に基づいて県が作成しており、昨年度までが4期目だった。3期目まではグループホームの整備や就労支援などが進んで90%程度の実績を上げたが、施設入所者の障害の重度化や高齢化で、自立して生活するのが困難な人が増えているという。

今年度からの計画では222人の地域移行を目標としており、県は、グループホームの機能拡充や住宅の確保を進め、達成を目指す。

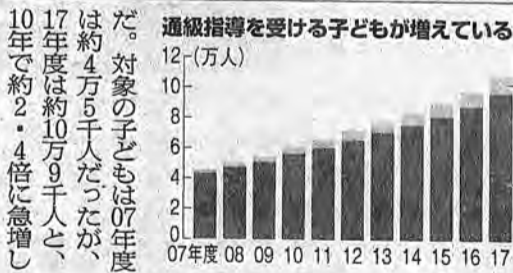
## 発達障害小中学生の通級指導

### 教員講座に「履修証明」

発達障害などが理由で「通級指導」を受ける小中学生が増えるなか、文科省は指導できる教員の数を増やそうと、専門性を高める取り組みを始める方針を固めた。教員が一定の講座を受ければ「履修証明」を出す制度をつくるほか、細かいマニュアルを策定し、指導計画を立てやすくすることなどを検討しており、早ければ2020年度から順次、実施する。

#### 文科省方針

通級指導は通常の学級に所属しつつ、週に数回はクラスを離れ、別室などで友人との円滑なコミュニケーションの仕方や、自分の障害の特性などについてグループや個別で学ぶ。「一方的に話す」「文字を書く」とや読むことが難しい」といった発達障害がある子どものほか、視力や聴力に比較的軽い障害がある子どもが対象



ており、中学生に限ると約5・5倍に増えた。特に学習障害(LD)や注意欠陥・多動性障害(ADHD)が理由の子どもの割合が増えている。

一方、校内で通級指導を受けられる公立の小学校は全体の22%、中学校は9%で、他校に通うか、希望しても受けられないケースが多い。また、専門の免許を持つ教員が教える特別支援学校と異なり、通級指導は通常の小中の教員が担うことが多く、教員の数と専門性が課題となっている。

文科省はこのため、通級指導をする専任教員数を17年度から10年間で、子ども13人に対して1人の割合に増やす政策を始めた。今回は、一人ひとりの障害に応じた指導方法を選び、実践

できる能力がある教員を増やすことを目指す。このため、講座などの研修を受けなくてもいい、修了者には履修証明を渡す方針。具体的な講座のカリキュラムなどは有識者らで作成し、大学や教育委員会などを実施主体として想定しており、教員の負担にならないよう、通常の業務をしながらでも受講しやすいものにする。

また、障害の特性に合わせたきめ細かなマニュアルを策定して、教員が指導計画を立てやすくすることも検討している。23日に、浮島智子・文科副大臣をトップにしたチームを立ち上げ、この計画を公表する。(矢島大輔)

平成31年1月9日発行  
NPO 法人  
「北斗七星」情報箱  
2019年冬号

# ダウン症児の自然な表情見て

## 支部30周年 23日から各地で写真展



写真は、ダウン症の子どもと保護者らでつくる日本ダウン症協会群馬支部の主権。「びかびかの子どもたち」そして輝く大人へ、30年の歩み」と題した。群馬支部が10月に設立30周年を迎え、その記念事業として3年前に発足した実行委員会が準備を進めてきた。

## 「障害を知る手がかりに」

突然固まってしまったり、その場に座り込んでしまったり。ダウン症の子どもの子どもたちが見せるしぐさや表情は何を意味するのか。そんなことを考えさせられる写真展が23日から県庁など県内5カ所と栃木県足利市で順次開かれる。親たちは「障害を知る手がかりに」と話している。

### ダウン症

正式名称はダウン症候群。800人~千人に1人の割合で生まれる。染色体の突然変異が原因で、筋肉が柔らかく、全体的にゆっくり発達するのが特徴で、個人差がある。書道や絵画など芸術分野に才能を発揮して活躍する人もいる。最初に報告した英国人医師ジョン・ラングドン・ダウン氏の名から名付けられた。

写真展は、ダウン症の子どもと保護者らでつくる日本ダウン症協会群馬支部の主権。「びかびかの子どもたち」そして輝く大人へ、30年の歩み」と題した。群馬支部が10月に設立30周年を迎え、その記念事業として3年前に発足した実行委員会が準備を進めてきた。

県内外の約120家族の会員に呼びかけ、43家族が撮影に協力。前橋市や桐生市、太田市などで撮影会を開いた。家庭などで過ごす普段の様子を撮影した家族もいる。多い家族で400~500枚ほど撮影。写真展では120枚を選び、状況説明も付ける。

子どもたちの笑顔や生き生きとした表情だけではなく、困ったり、泣いたりするような「弱さ」を見せるような場面など、あえて特性を表す展示にする。支部長の佐藤留美・実行委員長(44)は「障害があるがゆえの生きにくさや抱えている困難さを多くの人に知ってもらいたい」。

群馬支部は1988年10月、桐生市の公民館で6人の母親が親の会をつくったのが始まり。親同士が必要情報を得られることを目指した。地域への啓発や仲間づくり、生活環境の整備などを目的に、巡回セミナーや子育て教室、相談などの活動を続ける。初代会長の赤石嘉苗さん(56)は「まずはダウン症を知るきっかけに、写真展を見に来てほしい」と話している。

写真展は23日~12月2日 県庁32階展望ホール▽同日7~9日 太田市学習文化センター▽来年1月9~14日 高崎市役所▽同25~27日 渋川市の渋川すこやかプラザ▽2月15~17日 足利市朝倉町のコムファーストショッピングセンター▽同16日~3月15日 桐生市仲町3丁目のItoya coffee factory。問い合わせは赤石さん(090・8012・6684)へ。

(上田学)



自宅で家族勢ぞろいして写る中学1年の大沢沙雪さん(左から3人目)

## にゅうすほっくす

2019年 冬号

No. 1



# PC分解 障害者の仕事に幅

不用になったパソコンを企業から引き取って分解し、部品をリサイクルする取り組みを、県内の障害者施設が共同で進めている。障害者があたる仕事の幅を広げ、工賃アップにも貢献している。

## 4市町7施設 出荷など連携

前橋市上泉町の障害者就労継続支援B型事業所「ラスタール」は、身体や知的精神などさまざまな障害がある人ら約40人が通い、野菜の生産・販売、内職などの軽作業などを行う。そのパソコンを分解していた。



ノートパソコンを分解する菅原邦芳さん(手前)。萬谷高文施設長が見守る。前橋市上泉町

## 部品リサイクル 売却し収益に

「製造年代やメーカーによって機器の作りが違っていて、興味深いです」作業にあたるメンバーの障害の種類や程度はそれぞれ違い、作業も一人ひとりのペースで進める。部品や銅線、バッテリーなどを外し、基板を取り出す。

情報データの残るハードディスクの扱いには細心の注意を払う。回収したパソコンは鍵のかかる収納場所保管。ハードディスクに穴を開け、提供企業にも作業内容を報告する。

施設長の萬谷高文さん(67)は「多くの企業や団体が提供してくれ、助かっている。部品の買い取り価格に変動はあるが、定期的な収入源になっている」と話す。パソコンを提供する企業側にも、廃棄物として処理する費用がかからないという利点がある。

この事業は、県内の障害者施設が共同して5年前に始めた。現在は前橋市と高崎市、太田市、吉岡町の4市町にある7施設が出荷などで連携する。

集めたパソコンを分解し、部品ごとに仕分ける。多くの部品はほとんど値がつかないが、レアメタル(希少金属)を含有する基板は1枚数百円で売れる。これまでに約3万台分、計14トンの基板を出荷し、売り上げは約1100万円。施設で働く障害者の工賃アップにあてた。

メリットは税金にとどまらない。施設での仕事に新たな選択肢をつくり、能力開発に役立つ。7施設でつくる「群馬基板ネットワーク」の事務局長も務める萬谷さんは、「リサイクルを通して環境に貢献しているというやりがいもある」と評価する。

「売上額は作業量や手間に見合う額ではないし、パソコン機器のレアメタル含有量が少なくなっていて、今後不安もある。けれど、提供企業との接点ができ、交流も増えた。ネットワークを広げたい」と(上田学)

# 向き合う家族 幸せのかたち

米ドキュメンタリー映画「いとどりの親子」公開

障害やLGBTなど、親とは異なる個性を持った子どもと家族の関係を描いた米国のドキュメンタリー映画「いとどりの親子」が日本でも封切られました。映画を題材に、高校生が「多様性を受け入れること」を考える取り組みも。国際的ベストセラーをもとにした映画は問いかけます。人は「違い」を愛せるのだろうか――。

## 障害・LGBT…それぞれの個性

頭にはティアラ、肩にはマント。ダウン症のジェイソンさん(44)は休日、自宅にこもって、映画「アナと雪の女王」の主人公・エルサになりきる。空想上のヒロインに、本気で恋をしている。

ジェイソンさんは、小さいころ、読み書きも会話も無理だろうと診断された。両親は懸命に教え続け、子ども時代は想像以上に成長。親子でテレビ番組に出演し、全米に希望を説いたこともあった。

でも大人になった今、いくら「常識」を説いても現実と空想を混同する息子を前に、母親は言う。「彼の成長の限界を悟った時、私の夢は終わった」。そんな複雑な思いを抱えながらも、ジェイソンさんを慈しみ、見守る両親の姿もカメラは映し出す。

映画には、ダウン症や自閉症の子などを持つ6家族が登場する。我が子が、親自身や他の子どもとは異なる資質をもって人生を歩むとき、その「違い」に親たちがどう向き合い、受け入れようとしているのか。様々な過程が描かれている。

原作者の作家、アンドリュース・ソロモンさんも主人公の一人だ。自分がゲイだと両親に告白した時、困惑した母親は言った。「あなたは王道を歩み、子をもつて父になれ」。最愛の母は自分を理解しつづけてくれたが、

## 「違い」を受け入れる 考えた

11月上旬、東京学芸大付属国際中等教育学校の1室で、高校2年生11人が来日したレイチェル・ドレツツイン監督と「共生」について語り合っていた。監督自身は子どもに障害などはないが、原作に心を打たれて映画を作った。

「実際に障害など『違い』がある人が近くなると、頭で考えているほどは多様性を肯定できなくなるのでは、と不安です」。そんな生徒の質問に、ドレツツイン監督はこう答えた。「私も低身長症のジョーに会った時、戸惑いました。でも、2、3回会って一緒にビールを飲み、楽しく会話をすると、車いすのことも気にしなくなっていた。親密さが力になると思います」。

生徒は質問を重ねた。「誰だって、自分と似た人のコミュニティにいた方が居心地がいいのでは?」。監督の答えは「似ているものと居心地よく過ごすこと、あえて違う人と出会うこと。どちらが正しいわけでもなく、どちらも大切」というものだった。

「なぜ映画は、違いを乗り越えられなかった親子も描かなかったのか」という質問も出た。監督は「理解できることが増えても、『違い』を100%乗り越えているわけでは

ない。どの家族も、難しい状況に意味を見いだし、みずから選んで意義深いものを感じ取っている」と説明。「障害に限らず、誰もが非常に困難でつらい状況の中でも、そこに意義深いものを見いだすことができる可能性を持っている」と私は信じているし、それこそが原作やこの映画から学べることだ」と伝えた。

終了後、生徒たちは対話を振り返って話し合った。多かったのは「それでも、違いを乗り越えられずに悩んでいる家族もある。そういう人たちに、どう接すればいいのか」という意見だった。違いがある人に「支援」や「助ける」



原作者のアンドリュー・ソロモンさん(右)と父親。映画の一場面から＝ロングライド提供。2017 FAR FROM THE TREE



ドレツツイン監督(中央)と東京学芸大付属国際中等教育学校の生徒たち＝東京都練馬区

## 知的障害者向け料理本

自立生活へ 説明分かりやすく

知的障害のある人が料理に挑戦できるよう工夫された「たのしい、わかりやすい料理の本」は写真が豊富で、発行されたのは、出版された。発行したのは、知的障害者や家族らで作る全国組織「全国手をつなぐ育成会連合会」(事務局・滋賀県)。調理技術を身に付けて、自立生活の実現につながることを前記に書かれ、手順を示す写真が省略されているなど、理解が難しいことも多かったという。

知的障害者は大人になっても家族と同居したり施設で暮らしたりと、常に保護される環境にいることが多かった。しかし近年、生活



支援や差別解消、雇用促進などの法律が整備され、自立生活を選べる環境が整ってきた。

「自立生活」には料理の知識が欠かせないが、調理経験がない人も少なくない」と同会会長の久保厚子さん。市販の料理本で学ぼうとしても、一定の知識があることを前提に書かれ、手順を示す写真が省略されているなど、理解が難しいことも多かったという。

枝元なほみさんにレシピを依頼。炊き込みご飯やみそ汁、ハンバーグ、フレンチトーストなど約30のメニューを紹介した。全ての漢字にふりがなをつけ、野菜の切り方は調理の途中でも確認しやすいよう、冒頭にまとめた。米の研ぎ方を細かな手順ごとに写真で示すなど、イラストと写真を多用して理解を促している。

A4判変型、48頁。税抜1000円。申し込みは、



授業を企画した同校の山本勝治教諭(48)は言う。「違いに戸惑ったり、構えたりすることに生徒たちが気づき、素直に悩んだことに意義があったと思う。理屈ではないところで、自分なりの答えを見つけていくきっかけになってくれれば」(山内深紗子)

## 障害者への虐待、最多2618件

厚生労働省は26日、2017年度に全国の自治体などが確認した障害者への虐待は前年度より98件多い2618件だったと発表した。

1件で複数の人が虐待を受ける場合もあり、被害者数は346人増の3544人、死亡者数は4人減の1人だった。虐待件数と被害者数は調査が始まった12年度以降最多で、厚労省担当者は「警察や施設からの虐待報告が増えている」とする。

家族など養護者による虐待は19件増の1557件、被害者は16人増の1570人で、このうち1人が死亡した。雇用主や職場の上司らによる虐待は16件増の597件、被害者は336人増の1308人。また、障害者福祉施設の職員らによる虐待は63件増の464件、被害者は6人減の666人だった。養護者による虐待は12年度からほぼ横ばいが続くが、雇用主らは4.5倍、施設職員は5.8倍に増えている。



鬼は外～

NPO 法人  
「北斗七星」情報箱

2019年  
冬号

にゆうすぽくす

平成 31 年 1 月 29 日発行



NO. 2



2020年の東京パラリンピックを前に、障害のある児童生徒が通う特別支援学校は、運動部の活動に力を入れ始めている。国はスポーツに取り組み若年障害者を増やそうと支援に乗り出しているが、指導者の確保など克服すべき課題も多い。(中谷和義)

## 最前線

### ■教員の目配り

「行くよ」「ナイスシュート」。10月6日の土曜、特別支援学校・東京都立あきる野学園(あきる野市)の体育館でハンドサッカーの部活動が行われた。小学部4年と高等部3年の計14人が2時間、教員や保護者に見守られ、汗を流した。ハンドサッカーはハンドボールに似た競技で、障害に依り



10月10日号



2019年  
冬号

NO.2

陸上競技	206校
卓球	132
サッカー	103
バスケットボール	88
バドミントン	76
フライングディスク	69
野球	47
ポッチャ	36

※全国特別支援学校調査を基に作成。調査は視覚、聴覚など障害別に合計

特別支援学校(中・高)の運動部活動メニューの活動で行われている主な競技と導入校数

# 特別支援学校 運動部に力



ハンドサッカーの練習をする子供たち(10月6日、東京都立あきる野学園で)

## 障害者のスポーツ参加促す

特別支援学校 視覚や聴覚、知能、身体に比較的重い障害がある子供に対し、障害に応じて専門性の高い教育を行う学校。幼稚園、小学部、中学部、高等部に分かれ、少人数学級で指導する。国公立全体では昨年5月時点で約14万人が通っている。

ハンドサッカー パレーボールより一回り小さい球を使い、パスなどをしながらゴールに入れて得点を競うチーム競技(7人制)。様々な障害のある人が参加できるように工夫がとられている。東京を中心に特別支援学校などで取り入れられている。

ボールを持てる時間などに制限がある。高等部2年で主将の児島春夏さん(17)は「ルールが難しく、最初は失敗も多かったが、今は慣れた。みんなとチームプレーができるのが楽しい。今後、もっといろいろな競技に挑戦したい」と意気込みを語る。視覚や聴覚、身体などに様々な障害のある子供が安全に運動するには一人一人の目配りが欠かせず、この日は部員と同じ

14人の教員が参加した。対戦相手や審判も必要で、教員が10人いないと練習が成り立たないのが実情だ。また、スクールバスの運行時間の関係で平日の放課後の活動は難しく、保護者が送迎できる土曜に限られている。学園の運動部は、ハンドサッカー部、陸上部、様々な球技をする「球技部」で、参加者は全児童生徒の2割の約60人。「部活動は卒業後もスポーツを続けるきっかけになる。外部の専門家などの協力も得て、多くの子供に経験させたい」と市川裕二校長は話す。

スポーツ庁の2017年度調査では、若年障害者(7〜19歳)で週1回以上、スポーツをしている人は29.6%。同庁は21年度までに50%程度に高める目標を掲げ、学校や地域で障害者スポーツ指導者の活用やスポーツイベントの開催を促進する施策に取り組んでいる。障害者スポーツ振興室は「目標の実現には、多くの若年障害者が通う特別支援学校の取り組みが重要になる」と語る。

## 全国特別支援学校校長会が16年度に実施した全国調査では、回答した1179校(分校、分教室含む)のうち運動部(クラブ活動含む)があるのは約59%、699校。課題としては、指導者の不足や、子供たちを送迎する「移動手段の確保」が多かった。だが、五輪・パラリンピック教育の広がりにともな、パラリンピック競技に取り組み事例が開始されている。

ボールを投げたり転がしたりして目標への近さを競う競技「ポッチャ」では、特別支援学校などが参加する全国大会が開かれており、大阪府では今年、特別支援学校2校に「ポッチャ部」が出来た。東京都でも、ポッチャを含む競技に取り組み「パラスポーツ部」を新設したケースもある。

校長会の調査に携わった野村一路(日本体育大学教授、生涯スポーツ学)は、「障害者が継続的にスポーツに取り組みめるよう、教員の指導力の育成と外部の専門家の活用を進めることが大切になる。障害がある人もない人も参加できる大会を増やすなど地域と連携した体制づくりも求められる」と話している。

## 私の視点

淑徳大学准教授(特別支援教育)

1/17 綱



まつうら まさひろ  
松浦 俊弥

発達障害などの傾向がある子どもたちが、通常の学校や学級で教育を受けるケースが最近増えている。そこで注目が集まっているのが、障害の有無にかかわらず共に学ぶ「インクルーシブ教育」だ。特別支援教育が専門の私のところにも、教育関係機関や学習塾、PTAなどから、講演の依頼が多数寄せられている。昨夏、私はある自治体の団体から依頼され、学童保育の現場を視察した。障害傾向がある子どもが学童保育を利用するケースが増えたのを受け、共に過ごし、共に遊ぶ「放課後のインクルーシブ」の助言をするためだった。

数カ所を視察して見えてきたのは山積する課題だった。専門職員の不足、狭い部屋に多くの子どもがいる環境、障害傾向がある子どもが共に過ごすための合理的配慮の不足、学校との連携の難しさ……。

特に昨夏は猛暑で屋外で遊べる日が少なく、屋内で長い1日を過ごすねばならない日が多かった。たくさんの子どもたちがストレスをためる中、障害傾向がある子どもにとっては「過酷な夏」だったように思う。

2016年に施行された障害者差別解消法は、障害のある人が社会にあるバリアを取り除いてほしいと伝えた場合、行政機関などが負担の重すぎない範囲で対応する「合理的配慮の提供」を義務付けている。学童保育は社会福祉法人や民間企

## 学童保育でも国の支援を

インクルーシブ教育

業などが自治体から委託を受けて運営する公設民営型が多いが、厚生労働省は「学童保育は行政機関であり、合理的配慮を行う義務は自治体にある」としている。19年度からは学童保育の職員配置や資格に関する国の基準も事実上撤廃し、自治体の裁量に委ねる方針だ。現場の一部からは「実質的な基準切り下げになる」と戸惑いの声もあがっている。

学童保育は、女性の社会進出を支える場、子どもの社会性を育む場のほか、「放課後のインクルーシブ」を推進する場としても重要な。政府が「インクルーシブ教育」を浸透させていく方針ならば「学童保育のインクルーシブ」の推進は、クルマの両輪として欠かせないだろう。

国は合理的配慮を自治体任せにするのではなく、自らの責務として子どもたち、特にさまざまな障害傾向を抱える子どもたちへの配慮を真摯に考えてもらいたい。自治体任せにした場合、住む市町村によって子どもたちへの支援の違いが出てしまう。職員の負担も増えて、学童保育で働くこととする若者がいなくなるという事態にもなりかねない。

学童保育の現場に専門家を配置して助言や指導をしたり、施設や設備に関する予算の措置を講じたりする。国はこうした「放課後のインクルーシブ」を支える手立てを早く講じてほしい。すべての子どもが、笑顔で共に遊ぶことができるように。

# 手のかかる障害者に門戸開いて

1/6 朝日

地域活動支援センター施設長

星野 素子

(新潟県 43)

息子は知的障害を伴う自閉症があり、支援学校中学部に通っています。車で50分ほどの距離ですが、幸いスクールバスがあります。ところが高等部に進むと使えません。大混雑の路線バスを乗り継ぎ1時間半。接触過敏と聴覚過敏がある息子には過酷です。私が車で送迎せざるを得ないでしょう。やっと就けた仕事も継続が難しくなります。この状況がどうしても納得できません。なぜ、主要駅の近くなどに学校を建てて下さらなかつたのでしょうか。親の犠牲はや

むなし、でしようか。

学校は、公共交通機関が使えれば就労の選択の幅が広がると言います。大変厳しい考え方で感じます。中央省庁や自治体から「自力通勤」を条件にしていたようですが、社会のこの流れを受けて学校も厳しい対応をせざるを得ないでしょう。

親として必死でわが子を療育し、手を尽くしてきました。でも、学校や企業の求める「手のかからない障害者」にはなれそうもありません。障害は持つて生まれたもので、努力ではどうにも埋められないものがあるのも事実です。障害者雇用、もう少しの優しさを望んでいます。

# 待っていてくれてありがとうございます

1/6 朝日

高校生 荒崎 ころも

(茨城県 17)

私には軽度の知的障害と発達障害があります。国語は得意で、周囲から大丈夫、普通の人に見えるよと励まされます。でも、算数が苦手です。レシでパッと小銭を出すことができません。「普通に見える」からこそ困っていました。

ただ先日、地元のドラッグストアで、勇気を出して小銭を出してみたら、後ろの人はスマホを見ながら待っていてくれました。お店の人もほほほ笑みながら待っていてくれました。きっと、急ぎたい気持ちもあったと思いますが、それを見せずに待っていてくれた優しさがうれしかったです。皆さんの協力のおかげで、もう一人でもお金が払えそうです。ありがとうございます。

# 差別の根 胸に手を当て考えた

1/3 朝日

無職 神戸 道子

(三重県 88)

11月2日朝刊で「強制不妊おわび」主体は国民に」という見出しが目をつけた。旧優生保護法下で、障害のある人らに不妊手術が行われた問題で、超党派の議員連盟が救済法案骨子をまとめ、おわびの主体は、「国民」を意味する「我々」としたとごい。

1996年までおぼましい法律が存在したことを私は知らなかった。しかし、そういう歴史があったから、障害者施設での殺傷事件も起るのだ、と感じた。そしてその背景には、根っこに、人を差別する思想があるのではと思った。私は強制不妊に賛成した覚えはなく、「我々」に違和感を覚えるが、自分の胸に手を当てて深く考えてみる機会になった。

# 助け合って生きるための支援を

1/3 朝日

無職 古川 香

(長崎県 59)

「発達障害」と一体誰が名付けたのでしょうか。優れたところはある人それぞれ。苦手なことがない人はいるのでしょうか。

親にとって、桜舞う、子どもの入学は、うれしいもの。特別支援教育が正式に実施されてから11年が過ぎた。通級の障がい児は、特別支援を受ける学級と通常の学級を行き来する。そこで違いを認識し、やがて一緒に遊ばなくなる。あの子たちは時々違うクラスに行くから、頭が悪いから、なんか自分たちと違うみたいだから、と。親は子どもの成長を願う愛情を注いで育

てる。その思いは同じはずだ。日本は先進国だが、福祉は30年遅れと言われる。移民の国や経済では貧しい国でも、母国語が違えば学校でサポートが付くことがある。助けが必要な人は障がい児だけではないからだ。日本の福祉は、優れた者が施すという考え方がスタート。しかし、全てにおいて優れている人間がいるのだろうか。発達障害と呼ばれる人は優れたところがないのか。車いすの人、目や耳が不自由な人はどうか。もし少数派と多数派が逆転した社会なら、生き方も変わる。人は平等で助け合って生きるために生まれてきたと信じたい。

# 障害児就学 悩んで通常学級へ

1/6 朝日

小学校教員 丹羽 恵美

(愛知県 47)

小学2年の娘は成長するにつれて発達に遅れが目立ってきました。障害があるため、保育園や小学校では日常生活を支える職員をつけてもらっています。通う予定の小学校の先生方と1年以上前から定期的に話をしました。もし支援学級を希望すれば1人のクラスです。娘は、保育園でみんなと一緒に過ごす生活が普通でした。お友だちが大好きです。だから、たった1人のクラスに入れることは、娘を苦しませることになると思

い、通常学級を希望しました。現場が大変な思いをするだろうと分かっていたので、すくなく悩みに苦しみました。学校側からは、支援学級へどの程度も言われましたが、こちらの思いを伝え、通常学級に通うことになりました。介助職員は一日中付くわけではありませんが、娘に寄り添っていただけの人が出てきたらという安心感があります。自治体独自の放課後学級でも、同じような介助職員がついてくれています。

どこの学校現場でも、共に学ぶ「インクルーシブ」を理解しているとは限りません。私が実感したのは、子どものためには親が色々な制度を自分で学ばなくてはならないということです。

# 世界中みんな仲良く暮らしたい

12/11 朝日

小学生 山本 真碧

(千葉県 11)

私の夢は、みんなが平和に暮らせる町にしたいということです。私の弟は障がいを持っていて、自分の足で歩けなかったり、しゃべれなかったりします。そんな弟のためにも夢をかなえたいのです。障がいを持っていても、ほとんどの乗り物に乗れません。障がいを持

っている人も乗り物にいっぱい乗って楽しめる遊園地ができると思います。弟と外出すると、くすくす笑われ馬鹿にされているように感じることもあり、いやな気分になります。そういうことを世界中の人がしないでほしいと強く思います。障がいを持っている人も持っていない人も同じ人間です。世界中のみんなが仲良く暮らせる社会にしたいです。



NPPO法人  
「北斗七星」情報箱

No. 3

2019年 冬号

11/26 朝日

私には28歳になる自閉症の息子がいる。先日、同じような境遇の人たちとバス旅行に出かけた。行き先は山の中腹にある遊園地。まだ子どもが幼い親子連れが圧倒的に多かった。もう若くはない私たちが楽しめるのかなと思いつつも、観覧車に乗った。すると、とても雄大な景色が眼下に広がり、思いがけず楽しい気分になってきた。次に向かったメリーゴラウンドに、仲間のKさんと彼女のお母さんがいた。Kさんは木馬にまたがり、はにかみつつも高揚した笑顔浮かべていた。それがとても可愛くて、私はKさ

### 遊園地 素敵なおの日

人に手を振った。Kさんのお母さんもうれしそうに写真撮っていた。Kさんは子どものころは発作が頻回に起き、こうした乗り物に乗れなかったそう。しかし年齢を重ねると発作は減り、旅行も楽しめるようになったという。Kさんの年齢は私に近い。Kさんたちは紅葉の始まった山の中の遊園地にすっかり溶け込み、楽しんでた。親子が秋の一日を慈しむように過ごす姿が忘れられない。私の息子も大きな体を縮めるようにして、ミニ機関車に乗り、ご満悦で私に手を振ってくれた。

群馬県高崎市  
藤巻 早苗  
主婦 58歳

### 長男の書道展 施設で

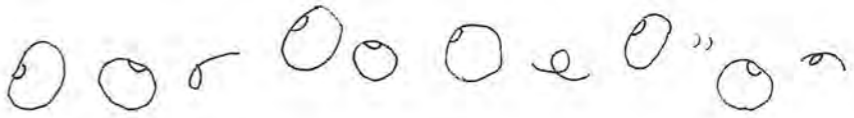
主婦 山崎由佳里 60 (浜松市)  
23年前、2歳7か月の長男がインフルエンザに伴い、脳症を罹患した。ひどいけいれんなどの症状に襲われ、言葉を失って寝たきりの状態になったが、何とか、一命を取り留めることができた。私と長男は365日休むことなく公園での歩行練習などのリハビリに取り組み、6歳で自力歩行可能に、その1年後には言葉を話すこともできるようになった。特別支援学校を卒業し、臨時職員の勤務などを経て現在は25歳。漢字検定準1級に合格、ラジオで英語や中国語などを学ぶ傍ら、書道に挑戦している。左手で筆を握ることができ、先日は初めての個展を開いた。今年、リハビリ施設で個展を開催したい。少しでも、患者さんたちを和ませられればと思っています。

11/17

### 人と違った道歩むことが人生

会社員 田辺 秀成 (群馬県 39)  
中学生の時に事故で左腕を失いました。親は子どものことを考えて、障がい児が通う学校へとも考えていましたが、私は障がいを気にしていませんでした。今、4人の子どもを持つ親になり、我が子が障がいを負ったら、と考えることがあります。私は、障がいがあるうとなかろうと、同じように他人と接することが出来る人間になって欲しいと思っています。それは障がいがある人と接したときも同じです。

大人が言う「正しい人生」とは大人の考えであって、それを教えた子どもが持つてしまった固定観念ではないでしょうか。例えば学校での教育方法です。みな同じ方法で学習するため、みんな方法が違つと注意されます。私は片腕のため、定規でまっすぐに線を引くことが大変ですが、決められたやり方を求められる学生時代より、結果で評価する社会人の方がだいぶ楽になりました。私は、違った方法を見つけ、違った道を歩むことが人生であると思っています。



### 障害者が働くハードルなくして

主婦 斉藤 美恵子 (東京都 68)  
財務省、防衛省などが障害者の職員を募集する際に「自力で通勤できる、介助者なしで業務が遂行できる」などの条件を課していたの記事を読み、悲しくなった。体が不自由な知り合いのUさんのことを思った。2年前、彼女は特別支援学校の高等部を卒業。自宅から電動車イスで約3分着ける福祉作業所に行くことを希望した。人に電動車イスに座らせてもらえさえすれば、Uさんは操作し、どこへも行ける。「自力で通勤したい、地域で暮らしたい」と思っていた。しかし、作業所からは「自力で通え、かつ、介助者なしで業務遂行可能」という条件をつけられて、早々に利用を拒否された。私はUさんのボランティアとして小学校に交流のため通うのを手伝ったり、校外合宿に同伴したりした。移動や排泄の介助をすれば作業所も通えると感じていた。働く上でのハードルを経験をしている人はたくさんいると思う。一人ひとりの障がいを見つめてほしい。声なき声を聴いてほしい。どうしたら地域で暮らせるか、知恵を出し合っていきたいと思います。

11/3 朝日

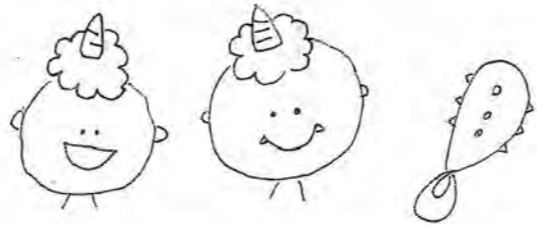
### 障害児の就学 親が動かないと

派遣社員 宮地 令子 (愛知県 45)  
昨年今頃、娘の就学について悩んでいました。娘はダウン症です。保育園での生活は手厚い支援で何の不自由もなく、子どもたちも娘のことをたくさん助けてくれました。ですが、小学校は学区が違つたため、慣れ親しんだ友だちと違う学校へ入学しなくてはならず、新しい友だちができるのか不安がありました。市の教育委員会に相談すると、職員から「友だちなんか必要ない」というようなことを言われてしまいました。障害児に対して知識がない、障害児に対して偏見をもった職員もまだいるのが現実です。学校を見学したり、自らダウン症についての資料を作成して学校に渡したり、入学直後には私が2週間付き添いをして学校での様子を見せたりしたりしました。そのためか、今では学校とどうも連携させてもらっています。この時期、就学で悩んでいる人は多いと思います。私の体験から言えるのは、教育委員会と学校現場が連携して対応してくれることと、受け入れ体制も充実してほしいということです。私たちが動かなければ何も変わりません。

11/7 朝日

### 障害者と職場の声聞いたのか

無職 間地 文夫 (神奈川県 71)  
中央省庁の障害者の雇用者数水増し問題で、政府は来年末までに約4千人の障害者の採用目標を掲げた。だが原因を究明し、現場と障害者の声を聞いてほしい。この数値目標は、職場の実態を把握した上で決めたものなのか疑問に思う。7年前、職場で2年間、1人の障害者を受け入れた。話し合い、皆で支援し働いてもらった。本来はこの職場でも受け入れるべきだが、単純反復作業の多い職場というのが受け入れの大きな理由だったと思う。雇率の目標達成に人事部門は汲



2019年 冬号

### にゅうすほっくす No. 3

平成 31 年 1 月 29 日発行





# お勧め図書館

「障害受容からの自由」

田島明子 編著 CBR 1,800円

「障害を受容する」とはどういうことか。身体・精神の障害、難病などを抱えた当事者、そしてその保護者と支援者。それぞれの立場の考えを述べた本です。

やはり気になるのは「本人の意思確認が困難な障害者」の保護者の意見。親が障害を受け入れないから療育や福祉制度の利用がすすまない、という話をよく聞きます。

本人が判断できないから、親がすべてを受け止めて対応しなければならない。よく考えれば大変な責任を負っている。そこで迷っている親を責めることができるか。具体的な事例や訴えを読んでいると考えさせられます。身体や精神の障害受容についても勉強になりました。(森)

☆☆星くずのつばやき 其の13 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## のぞみの園 診療所

園内には、ふれあいゾーンとして、一般の人でも利用できる季節の草花や木々の「公園」や、ハーブや香りの木々の植えられた「香りガーデン」や「お休所」(空調完備 給茶機)があります。なんと、高崎の市バス「ぐるりん」の停留所までなのです。

特に私が注目したのは、外部の障害のある人たちにも受診できるという診療所です。内科、精神科、皮膚科、整形外科、歯科があります。〈完全予約制・入院設備あり〉

「地域で生活する知的障害や発達障害の皆さまが安心して受診できる医療機関として、心かよう医療サービスの提供に努めていきます」と案内しております。

### ・健康診断について

対象者 18才以上の障害者手帳保持者  
実施日 毎週木曜日 9:00~12:00

重い障害のある子どもたちにとって、健診や処検査は待ち時間も含めてかなりハードルが高いものです。家族も安心して受診できる場所の一つとして覚えておいてもいいかと思えます。何かあった時に、車で1時間位で行けるのですから・・・

あまり遠くないうちに息子も健康診断を受けさせようと思っています。

診療所 (国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園)  
〒370-0865 高崎市寺尾町 2120-2  
☎027-320-1327 受付時間 8:30~17:30  
(休診：土日祝日・年末年始)

### 編集後記

2019年始まって、人生初といえるほど、様々な変化を感じます(パソコンが壊れたり、ペンが液漏れしていたり、etc.)平成最後、体だけは壊さない1年にしたいです。

S・F